



アジェンダ

1	Doctor ECHO インストール手順	・ ・ ・	2
2	Doctor ECHO パッチ適用手順	・ ・ ・	5
3	Doctor ECHO メール送信設定変更手順	・ ・ ・	7
4	Doctor ECHO Data Pump ディレクトリ設定変更手順	・ ・ ・	8
5	Doctor ECHO アップグレード手順	・ ・ ・	9
6	Doctor ECHO スキーマ Expdp / Impdp 手順	・ ・ ・	14
7	Doctor ECHO Full Expdp / Full Impdp 手順	・ ・ ・	15
8	Doctor ECHO ライセンスキー一覧確認手順	・ ・ ・	16
9	Doctor ECHO アンインストール手順	・ ・ ・	17

1 Doctor ECHO インストール手順

(1) Doctor ECHO ソフトウェアの配置

- ① Doctor ECHO ソフトウェアの圧縮ファイルを、Doctor ECHO Server に Oracle ユーザでログインし、適切な場所に配置して下さい。
- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ 配置場所 : %ORACLE_BASE%\admin\<DB_NAME>
(例) C:\oracle\exe\app\oracle\admin\XE
 - ・ ファイル名 : Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
(例) Doctor_ECHO_1.0.0_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ 配置場所 : \$ORACLE_BASE/admin/<DB_NAME>
(例) /u01/app/oracle/admin/XE
 - ・ ファイル名 : Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip
(例) Doctor_ECHO_1.0.0_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip

(2) Doctor ECHO ソフトウェアの解凍

- ① Doctor ECHO ソフトウェアの圧縮ファイルを解凍して下さい。
- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ unzip Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
(例) unzip Doctor_ECHO_1.0.0_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip

※ ディレクトリ構成は、下記の通りです。

```
%ORACLE_BASE%\admin\<DB_NAME>
└─ %doctor_echo
    └─ Doctor_ECHO_Release.txt ※ Doctor ECHO ホームディレクトリ ( ECHO_HOME )
    └─ %admin
        └─ %bat ※ Doctor ECHO 管理バッチコマンド
        └─ %sql ※ Doctor ECHO 管理SQLファイル
    └─ %bat ※ ライセンスキー管理バッチコマンド
    └─ %sql ※ ライセンスキー管理SQLファイル
    └─ %option ※ 各種オプションスクリプトファイル
    └─ %sample ※ 各種サンプルファイル
```

- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ unzip Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip
(例) unzip Doctor_ECHO_1.0.0_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip

※ ディレクトリ構成は、下記の通りです。

```
$ORACLE_BASE/admin/<DB_NAME>
└─ /doctor_echo
    └─ Doctor_ECHO_Release ※ Doctor ECHO ホームディレクトリ ( ECHO_HOME )
    └─ /admin
        └─ /bin ※ Doctor ECHO 管理シェルコマンド
        └─ /sql ※ Doctor ECHO 管理SQLファイル
    └─ /bin ※ ライセンスキー管理シェルコマンド
    └─ /sql ※ ライセンスキー管理SQLファイル
    └─ /option ※ 各種オプションスクリプトファイル
    └─ /sample ※ 各種サンプルファイル
```

(3) Doctor ECHO ソフトウェアの実行権限付与 (for Oracle XE 11gR2 Linux のみ)

- ① Doctor ECHO ソフトウェアに実行権限を付与して下さい。

I cd \$ECHO_HOME/admin/bin

II chmod 755 *

III cd \$ECHO_HOME/bin

IV chmod 755 *

(4) tnsnames.ora ファイルの編集

- ① Doctor ECHO Server に接続するための接続情報を、tnsnames.ora ファイルに追記して下さい。

※ 記述方法については、サンプルの doctor_echo_tnsnames.ora ファイルを参照して下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合

- %ECHO_HOME%\sample\doctor_echo_server\doctor_echo_tnsnames.ora

- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合

- \$ECHO_HOME/sample/doctor_echo_server/doctor_echo_tnsnames.ora

- 参照ファイル

- doctor_echo_tnsnames.ora

- 接続文字列

- Doctor_ECHO

※ HOST , PORT , SERVICE_NAME 等は、お客様の環境に合わせて変更して下さい。

※ 但し、接続文字列の「 Doctor_ECHO 」は、絶対に変更しないで下さい。

(5) Doctor ECHO 表領域の作成 (任意)

- ① Doctor ECHO 表領域の作成は、オプションです。
Oracle Database Server の稼動状況を格納するための表領域に、
既存の表領域を使用できない場合は、別途、Doctor ECHO 専用の表領域を作成して下さい。

※ Doctor ECHO 専用の Doctor ECHO 表領域 (echo) を作成して頂く事を推奨します。

※ 作成する場合は、create_tablespace_doctor_echo.sql スクリプトを、
Doctor ECHO Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合

- %ECHO_HOME%\option\doctor_echo_server\create_tablespace_doctor_echo

- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合

- \$ECHO_HOME/option/doctor_echo_server/create_tablespace_doctor_echo

- 実行スクリプト

- create_tablespace_doctor_echo.sql

(6) Doctor ECHO ソフトウェアのインストール

- ① Doctor ECHO ソフトウェアをインストールします。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\admin¥bat¥install_echo.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/admin/bin/install_echo

※ Doctor ECHO (echo) ユーザが作成されます。

※ インストール時に入力が必要な項目は、下記の通りです。

※ 大文字と小文字を区別しますので、実機にて確認して頂き、正確に入力して下さい。

- | | | |
|-----------------------------|---|---|
| ・ LICENSE_TYPE | : | トライアル使用 : Trial 、フリー使用 : Free |
| ・ ORACLE_HOME | : | Doctor ECHO Server の ORACLE_HOME |
| ・ SYS_USER_PASSWORD | : | SYS ユーザのパスワード |
| ・ ECHO_USER_PASSWORD | : | Doctor ECHO ユーザのパスワード |
| ・ ECHO_DEFAULT_TABLESPACE | : | Doctor ECHO ユーザのデフォルト表領域名 |
| ・ ECHO_TEMPORARY_TABLESPACE | : | Doctor ECHO ユーザの一時表領域名 |
| ・ SMTP_SERVER_NAME | : | Mail Server のホスト名または IP |
| ・ SMTP_SERVER_PORT | : | Mail Server のポート番号 |
| ・ SMTP_USER_NAME | : | Doctor ECHO 用メールユーザID |
| ・ SMTP_USER_PASSWORD | : | Doctor ECHO 用メールパスワード |
| ・ MAIL_RECIPIENT_1 | : | Doctor ECHO 責任者のメールアドレス |
| ・ MAIL_RECIPIENT_2 | : | オプション (DB 管理者のメールアドレス) |
| ・ MAIL_RECIPIENT_3 | : | オプション (DB 管理者のメールアドレス) |
| ・ ECHO_DATA_PUMP_DIR | : | Expdp (dmp) ファイルおよび
構成レポート (csv) ファイルの作成場所 |

★『トライアル使用』★

『トライアル使用』の場合は、入力項目の LICENSE_TYPE に [Trial] と入力して下さい。

LICENSE_TYPE に [Trial] と入力する事で、『トライアル使用』となり、弊社へのメール送信は行いません。

LICENSE_TYPE に [Trial] 以外が入力された場合は、弊社にもメール送信が行われますのでご注意ください。

(7) Doctor ECHO ソフトウェアのインストール完了確認

- ① クライントPCのブラウザから Doctor ECHO にログインできる事を確認して下さい。

※ Doctor ECHO ログイン URL は、下記の通りです。

- <http://<Doctor ECHO Server>:<Port>/apex/f?p=1:1>
(例) <http://echo:8080/apex/f?p=1:1>

- Doctor ECHO ユーザ名 : echo

2 Doctor ECHO パッチ適用手順

【ご注意】

Doctor ECHO のパッチ適用は、現在まで収集した既存の稼動状況を引き継ぎ事ができます。
Doctor ECHO パッチ適用の対象となる条件は、下記の通りです。

- Doctor ECHO ソフトウェア <バージョン> の1桁目と2桁目が同じで、3桁目が更新されている場合のみを対象とします。

(例1) Doctor_ECHO_1.0.0_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip



Doctor_ECHO_1.0.1_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip

※ <バージョン> の1桁目と2桁目が同じで、3桁目が更新されているため、パッチ適用できます。

(例2) Doctor_ECHO_1.0.0_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip



Doctor_ECHO_1.1.1_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip

※ <バージョン> の2桁目が更新されているため、パッチ適用できません。



※ この様な場合は、Doctor ECHO のアップグレードで対応して下さい。

※ 詳細は、

『 II Doctor ECHO管理 編 』の「 5 Doctor ECHO アップグレード手順 」を参照して下さい。

(1) 全ライセンスキーの無効化

- ① 全てのライセンスキーに対して、ライセンスキーの無効化を実施し、ライセンスキーを無効にして下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\disable_echo_license_key.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) Doctor ECHO ソフトウェア パッチの配置

- ① Doctor ECHO ソフトウェア パッチの圧縮ファイルを、Doctor ECHO Server に Oracle ユーザでログインし、Doctor ECHO ソフトウェアを配置した同じ場所にパッチを配置して下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ 配置場所 : %ORACLE_BASE%\admin\<DB_NAME>
(例) C:\oracle\xe\app\oracle\admin\XE
 - ・ ファイル名 : Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
(例) Doctor_ECHO_1.0.1_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ 配置場所 : \$ORACLE_BASE/admin/<DB_NAME>
(例) /u01/app/oracle/admin/XE
 - ・ ファイル名 : Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip
(例) Doctor_ECHO_1.0.1_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip

(3) Doctor ECHO ソフトウェア パッチの解凍

- ① Doctor ECHO ソフトウェア パッチの圧縮ファイルを解凍して下さい。
- ※ Doctor ECHO ソフトウェア パッチを解凍する事で、最新のソフトウェアに更新されます。
※ Doctor ECHO ソフトウェア パッチを解凍する前に、ECHO_HOME のバックアップをお勧めします。
- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - unzip Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
(例) unzip Doctor_ECHO_1.0.1_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - unzip Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip
(例) unzip Doctor_ECHO_1.0.1_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip

(4) Doctor ECHO ソフトウェアのパッチ適用

- ① Doctor ECHO ソフトウェアのパッチを適用します。
- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - %ECHO_HOME%\admin¥bat¥patch_echo.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - \$ECHO_HOME/admin/bin/patch_echo

(5) Doctor ECHO ソフトウェアのパッチ適用完了確認

- ① クライントPCのブラウザから Doctor ECHO にログインできる事を確認して下さい。
- ※ Doctor ECHO ログイン URL は、下記の通りです。
- http://<Doctor ECHO Server>:<Port>/apex/f?p=1:1
(例) http://echo:8080/apex/f?p=1:1
 - Doctor ECHO ユーザ名 : echo

(6) 全ライセンスキーの有効化

- ① 全てのライセンスキーに対して、ライセンスキーの有効化を実施し、ライセンスキーを有効にして下さい。
- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - %ECHO_HOME%\bat¥enable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

3 Doctor ECHO メール送信設定変更手順

(1) 全ライセンスキーの無効化

- ① 全てのライセンスキーに対して、ライセンスキーの無効化を実施し、ライセンスキーを無効にして下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\disable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) Doctor ECHO メール送信設定の設定変更

- ① Doctor ECHO メール送信設定を変更します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\admin\bat\change_echo_send_mail.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/admin/bin/change_echo_send_mail

(3) Doctor ECHO メール送信設定変更完了確認

- ① クライントPCのブラウザから Doctor ECHO にログインし、Doctor ECHO メール送信の設定を確認して下さい。
 - ※ Doctor ECHO ログイン URL は、下記の通りです。
 - http://<Doctor ECHO Server>:<Port>/apex/f?p=1:1
(例) http://echo:8080/apex/f?p=1:1
 - Doctor ECHO ユーザ名 : echo

(4) 全ライセンスキーの有効化

- ① 全てのライセンスキーに対して、ライセンスキーの有効化を実施し、ライセンスキーを有効にして下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\enable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

4 Doctor ECHO Data Pump ディレクトリ設定変更手順

(1) 全ライセンスキーの無効化

- ① 全てのライセンスキーに対して、ライセンスキーの無効化を実施し、ライセンスキーを無効にして下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\disable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) Doctor ECHO Data Pump ディレクトリの設定変更

- ① Doctor ECHO Data Pump ディレクトリ設定を変更します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\admin\bat\change_echo_data_pump_dir.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/admin/bin/change_echo_data_pump_dir

(3) Doctor ECHO Data Pump ディレクトリ設定変更完了確認

- ① クラينتPCのブラウザから Doctor ECHO にログインし、Doctor ECHO Data Pump ディレクトリの設定を確認して下さい。

※ Doctor ECHO ログイン URL は、下記の通りです。

- <http://<Doctor ECHO Server>:<Port>/apex/f?p=1:1>
(例) <http://echo:8080/apex/f?p=1:1>
- Doctor ECHO ユーザ名 : echo

(4) 全ライセンスキーの有効化

- ① 全てのライセンスキーに対して、ライセンスキーの有効化を実施し、ライセンスキーを有効にして下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\enable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

5 Doctor ECHO アップグレード手順

【 ご注意 】

Doctor ECHO のアップグレードは、現在まで収集した既存の稼働状況を引き継ぐ事ができません。従って、既存の稼働状況は、全て削除されますので、ご注意下さい。
Doctor ECHO アップグレードの対象となる条件は、下記の通りです。

- Doctor ECHO ソフトウェア <バージョン> の1桁目が同じで、2桁目が更新されている場合のみを対象とします。

(例1) Doctor_ECHO_1.0.1_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip



Doctor_ECHO_1.1.0_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip

※ <バージョン> の1桁目が同じで、2桁目が更新されているため、アップグレードできます。

(例2) Doctor_ECHO_1.0.1_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip



Doctor_ECHO_2.1.0_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip

※ この様な場合は、<バージョン> の1桁目が更新されているため、アップグレードできません。



※ アップグレード後のバージョンは、現在の環境をサポートしていません。アップグレード後のバージョンの前提条件を満たした新たな環境を構築し、再度 Doctor ECHO をインストールして下さい。

(1) 全 Doctor ECHO ライセンスキーの無効化

- ① 全ての Doctor ECHO ライセンスキーに対して、ライセンスキーの無効化を実施し、ライセンスキーを無効にして下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\disable_echo_license_key.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) 全 Doctor ECHO ライセンスキーのアンセットアップ

- ① 全ての Doctor ECHO ライセンスキーをアンセットアップして下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\unsetup_echo_license_key.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/unsetup_echo_license_key

(3) Doctor ECHO ソフトウェアのアンインストール

- ① Doctor ECHO ソフトウェアをアンインストールします。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - %ECHO_HOME%\admin¥bat¥uninstall_echo.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - \$ECHO_HOME/admin/bin/uninstall_echo

(4) Doctor ECHO ソフトウェアの配置

- ① Doctor ECHO ソフトウェアの圧縮ファイルを、Doctor ECHO Server に Oracle ユーザでログインし、適切な場所に配置して下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - 配置場所 : %ORACLE_BASE%\admin¥<DB_NAME>
(例) C:\oracle\xe¥app¥oracle¥admin¥XE
 - ファイル名 : Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
(例) Doctor_ECHO_1.1.0_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - 配置場所 : \$ORACLE_BASE/admin/<DB_NAME>
(例) /u01/app/oracle/admin/XE
 - ファイル名 : Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip
(例) Doctor_ECHO_1.1.0_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip

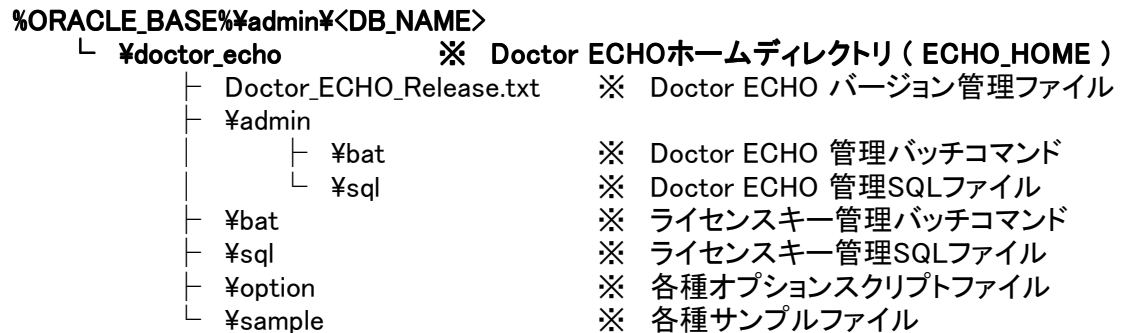
(5) Doctor ECHO ソフトウェアの解凍

- ① Doctor ECHO ソフトウェアの圧縮ファイルを解凍して下さい。

● for Oracle XE 11gR2 Windows の場合

- unzip Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
(例) unzip Doctor_ECHO_1.1.0_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip

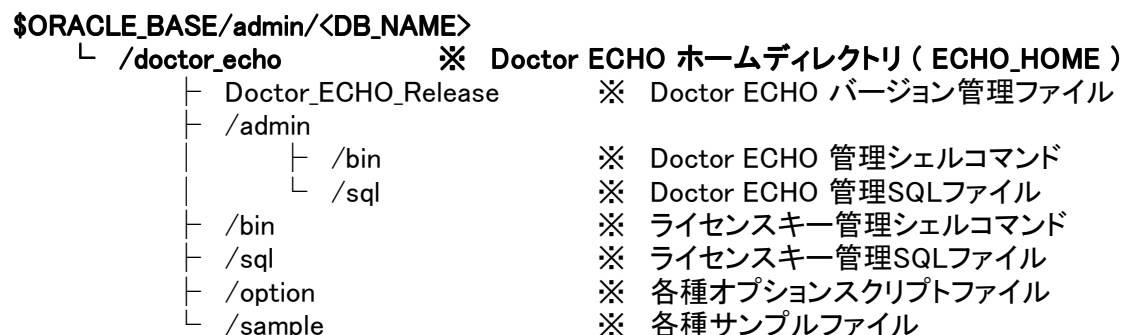
※ ディレクトリ構成は、下記の通りです。



● for Oracle XE 11gR2 Linux の場合

- unzip Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip
(例) unzip Doctor_ECHO_1.1.0_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip

※ ディレクトリ構成は、下記の通りです。



(6) Doctor ECHO ソフトウェアの実行権限付与 (for Oracle XE 11gR2 Linux のみ)

- ① Doctor ECHO ソフトウェアに実行権限を付与して下さい。

I cd \$ECHO_HOME/admin/bin

II chmod 755 *

III cd \$ECHO_HOME/bin

IV chmod 755 *

(7) Doctor ECHO ソフトウェアのインストール

- ① Doctor ECHO ソフトウェアをインストールします。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\admin¥bat¥install_echo.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/admin/bin/install_echo

※ インストール時に入力が必要な項目は、下記の通りです。

※ 大文字と小文字を区別しますので、実機にて確認して頂き、正確に入力して下さい。

・ LICENSE_TYPE	: トライアル使用 : Trial 、フリー使用 : Free
・ ORACLE_HOME	: Doctor ECHO Server の ORACLE_HOME
・ SYS_USER_PASSWORD	: SYS ユーザのパスワード
・ ECHO_USER_PASSWORD	: Doctor ECHO ユーザのパスワード
・ ECHO_DEFAULT_TABLESPACE	: Doctor ECHO ユーザのデフォルト表領域名
・ ECHO_TEMPORARY_TABLESPACE	: Doctor ECHO ユーザの一時表領域名
・ SMTP_SERVER_NAME	: Mail Server のホスト名または IP
・ SMTP_SERVER_PORT	: Mail Server のポート番号
・ SMTP_USER_NAME	: Doctor ECHO 用メールユーザID
・ SMTP_USER_PASSWORD	: Doctor ECHO 用メールパスワード
・ MAIL_RECIPIENT_1	: Doctor ECHO 責任者のメールアドレス
・ MAIL_RECIPIENT_2	: オプション (DB 管理者のメールアドレス)
・ MAIL_RECIPIENT_3	: オプション (DB 管理者のメールアドレス)
・ ECHO_DATA_PUMP_DIR	: Expdp ファイルが置ける場所

★『トライアル使用』★

『トライアル使用』の場合は、入力項目の LICENSE_TYPE に [Trial] と入力して下さい。

LICENSE_TYPE に [Trial] と入力する事で、『トライアル使用』となり、弊社へのメール送信は行いません。

LICENSE_TYPE に [Trial] 以外が入力された場合は、弊社にもメール送信が行われますのでご注意ください。

(8) Doctor ECHO ソフトウェアのインストール完了確認

- ① クライントPCのブラウザから Doctor ECHO にログインできる事を確認して下さい。

※ Doctor ECHO ログイン URL は、下記の通りです。

- <http://<Doctor ECHO Server>:<Port>/apex/f?p=1:1>
(例) <http://echo:8080/apex/f?p=1:1>
- Doctor ECHO ユーザ名 : echo

(9) 全 Doctor ECHO ライセンスキーのセットアップ

- ① 全ての Doctor ECHO ライセンスキーをセットアップします。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥setup_echo_license_key.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/setup_echo_license_key

※ セットアップ時に入力が必要な項目は、下記の通りです。

※ 大文字と小文字を区別しますので、実機にて確認して頂き、正確に入力して下さい。

- | | | |
|-----------------------|---|---|
| ORACLE_HOME | : | Doctor ECHO Server の ORACLE_HOME |
| ECHO_USER_PASSWORD | : | Doctor ECHO ユーザのパスワード |
| SERVER_CONSTRUCTION | : | Oracle Database Server の構成 <ul style="list-style-type: none"> ・Single の場合は、[S] ・High Availability の場合は、[H] ・Real Application Clusters の場合は、[R] |
| HOST_NAME | : | ホスト名(ドメイン名は不要) |
| DB_UNIQUE_NAME | : | DB ユニーク名 |
| INSTANCE_NAME | : | インスタンス名 |
| MASTER_NODE | : | マスタノード名 <ul style="list-style-type: none"> ・[S] の場合は、HOST_NAME ・[H] の場合は、仮想ホスト名 ・[R] の場合は、マスタノード名 |
| LICENSE_NO | : | ライセンス No |
| GLOBAL_NAME | : | グローバル名 |
| CONNECT_USER_NAME | : | Oracle Database に接続するユーザ名 |
| CONNECT_USER_PASSWORD | : | 接続ユーザのパスワード |

★『トライアル使用』★

『トライアル使用』の場合は、入力項目の LICENSE_NO に [0 (ゼロ)] を入力して下さい。
 LICENSE_NO に [0 (ゼロ)] と入力する事で、全ての機能を 1週間使用する事ができます。
 但し、前提条件として、LICENSE_TYPE に [Trial] と入力されており、『トライアル使用』となっている事が前提条件となります。

(10) 全 Doctor ECHO ライセンスキーのセットアップ完了確認

- ① クライントPCのブラウザから Doctor ECHO にログインし、全ての Doctor ECHO ライセンスキーを確認して下さい。

※ Doctor ECHO ログイン URL は、下記の通りです。

- http://<Doctor ECHO Server>:<Port>/apex/f?p=1:1
 (例) http://echo:8080/apex/f?p=1:1
- Doctor ECHO ユーザ名 : echo

(11) 全 Doctor ECHO ライセンスキーの有効化

- ① 全ての Doctor ECHO ライセンスキーを有効化して下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥enable_echo_license_key.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

6 Doctor ECHO スキーマ Expdp / Impdp 手順

【 Doctor ECHO スキーマ Expdp 手順 】

(1) Doctor ECHO スキーマの Expdp

- ① Doctor ECHO スキーマの全データを Expdp します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\admin¥bat¥expdp_echo.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/admin/bin/expdp_echo

【 Doctor ECHO スキーマ Impdp 手順 】

(1) 全 Doctor ECHO ライセンスキーの無効化

- ① 全ての Doctor ECHO ライセンスキーを無効化して下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥disable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) Doctor ECHO スキーマの Impdp

- ① Doctor ECHO スキーマの全データを Impdp します。

※ 既存データは、全て削除（ TRUNCATE ）され、Impdp されます。

 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\admin¥bat¥impdp_echo.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/admin/bin/impdp_echo

(3) 全 Doctor ECHO ライセンスキーの有効化

- ① 全ての Doctor ECHO ライセンスキーを有効化して下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥enable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

7 Doctor ECHO Full Expdp / Full Impdp 手順

【 Full Expdp 手順 】

(1) Doctor ECHO Database 全体の Expdp

- ① Doctor ECHO Database 全体のデータを Expdp します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\admin¥bat¥full_expdp_echo.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/admin/bin/full_expdp_echo

【 Full Impdp 手順 】

(1) 全 Doctor ECHO ライセンスキーの無効化

- ① 全ての Doctor ECHO ライセンスキーを無効化して下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥disable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) Doctor ECHO Database 全体の Impdp

- ① Doctor ECHO Database 全体のデータを Impdp します。

※ 既存データは、全て削除（ TRUNCATE ）され、Impdp されます。

 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\admin¥bat¥full_impdp_echo.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/admin/bin/full_impdp_echo

(3) 全 Doctor ECHO ライセンスキーの有効化

- ① 全ての Doctor ECHO ライセンスキーを有効化して下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥enable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

8 Doctor ECHO ライセンスキー一覧確認手順

(1) Doctor ECHO ライセンスキー一覧の確認

- ① Doctor ECHO ライセンスキー一覧を確認します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - `%ECHO_HOME%\admin¥bat¥list_echo_license_key.bat`
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - `$ECHO_HOME/admin/bin/list_echo_license_key`

9 Doctor ECHO アンインストール手順

(1) 全 Doctor ECHO ライセンスキーの無効化

- ① 全ての Doctor ECHO ライセンスキーを無効化して下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\disable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) 全 Doctor ECHO ライセンスキーのアンセットアップ

- ① 全ての Doctor ECHO ライセンスキーをアンセットアップして下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\unsetup_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/unsetup_echo_license_key

(3) Doctor ECHO ソフトウェアのアンインストール

- ① Doctor ECHO ソフトウェアをアンインストールします。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\admin\bat\uninstall_echo.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/admin/bin/uninstall_echo

(4) Doctor ECHO 表領域の削除（任意）

- ① Oracle Database Server の稼動状況を格納するために、別途、Doctor ECHO 表領域を作成した場合は、該当の Doctor ECHO 表領域を削除して下さい。
 - ※ 削除する場合は、drop_tablespace_doctor_echo.sql スクリプトを、Doctor ECHO Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\option\doctor_echo_server\create_tablespace_doctor_echo
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/option/doctor_echo_server/create_tablespace_doctor_echo
 - 実行スクリプト
 - ・ drop_tablespace_doctor_echo.sql

(5) tnsnames.ora ファイルの編集

- ① Doctor ECHO Server に接続するための接続情報を、tnsnames.ora ファイルから削除して下さい。
 - 接続文字列
 - Doctor_ECHO

(6) Doctor ECHO ソフトウェアの削除

- ① Doctor ECHO ソフトウェアの関連ファイルを全て削除して下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - 配置場所 : %ORACLE_BASE%\admin¥<DB_NAME>
(例) C:\oracle\XE\app\oracle\admin\XE
 - ファイル名 : Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
(例) del Doctor_ECHO_1.0.0_for_Oracle_XE_11gR2_Windows.zip
 - ディレクトリ名 : Doctor_ECHO
(例) エクスプローラから「削除」して下さい。
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - 配置場所 : \$ORACLE_BASE/admin/<DB_NAME>
(例) /u01/app/oracle/admin/XE
 - ファイル名 : Doctor_ECHO_<バージョン>_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip
(例) rm -f Doctor_ECHO_1.0.0_for_Oracle_XE_11gR2_Linux.zip
 - ディレクトリ名 : Doctor_ECHO
(例) rm -rf Doctor_ECHO